

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	9
申請担当大学 (連携大学)	九州大学(計10大学) (福岡大学、久留米大学、佐賀大学、長崎大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学)		
プログラム名	新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン		
事業推進責任者	住本 英樹(九州大学大学院医学研究院長)		
取組の概要			
<p>本プランはこれまでの10年に及ぶ九州内の医療系大学との継続的ながん教育連携を基盤とし、九州大学の九州連携臨床腫瘍学講座が10の大学院・関連医療機関等と密接に連携し九州内の多様な新ニーズに対応するがん専門医療人を養成する。また長崎大学の臨床腫瘍学分野、鹿児島大学の臨床腫瘍学講座が九州内連携の要となり、特にライフステージに応じたがん対策を推進する多職種人材養成を行う。当該講座には専門の教員を配置し、各大学病院内の小児がん医療部門、希少がん部門、ゲノム医療関連部門等との強力な連携に基づく実地教育を行う。対面講義・研修等に加え遠隔通信等も利用し広域にわたる大学連携を機能的に実現させ、新ニーズに対応した多職種連携教育の構築・情報発信を行う。またゲノム医療や小児・希少がんに対する海外の先進事例を積極的に収集し発信することで本プランのみならず我が国におけるがん専門医療人の養成に寄与する。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○事業の実施体制、年度別の計画が具体性を持っており、実現可能性を示唆している。九州全領域をカバーする上で、九州大学、長崎大学、鹿児島大学がエリア代表校となることで事業の集約を行うなど、プロジェクトのマネジメントが効果的になるように工夫されている。</p> <p>○各大学のコーディネーターや連携医療機関の代表者で構成される「事業運営推進協議会」を設置し、年2回の頻度で開催を予定するなど、事業の推進や継続的な事業展開に係る実効性を持った体制を整備することとしている。</p> <p>○地域の特性を踏まえた上での総合的ながん対策を担う人材養成が想定されており現実的である。特に、離島、僻地のがん対策についての着眼点は独自性が高いだけでなく、社会的必要性も高く評価できる。</p> <p>○取組の質を高めるため、「拠点間リトリート」において他拠点グループとの連携が予定されている。</p> <p>●連携大学との教育・研究の情報共有方法を明確にする必要がある。</p> <p>●拠点間リトリートの開催は有用と思われるが、トピックによっては医療事情や社会事情が異なるので、地域性を考慮し、相互にメリットが得られるよう工夫が必要である。</p> <p>●事業の実施体制において、実施に関わる教員数が著しく少ない。</p> <p>●ライフステージ領域において、多様性への配慮や将来を見据えた難治性苦痛の緩和、サバイバーシップなどの焦点化された先駆的な取組が乏しい。</p>			